

「三方よしの公共事業」の取り組み ～工事におけるCCPMの活用～

北部ダム事務所 億首出張所 出張所長 ◎新城 晴伸
工事第二係長 ○内間 安智

1. 目的

公共事業の「三方」とは発注者、受注者、利用者のことであり、具体的には発注者にとっては「責任を全うする」、受注者にとっては「利用者に喜ばれ利益になる」、利用者にとっては「便利になる」など皆にとってプラスとなることである。

今回三方よしを取り組むための手法としてCCPM（クリティカルチェーン・プロジェクトマネージメント）を活用した。CCPMとは、全体最適の観点から開発されたプロジェクト管理手法であり、工事の目標やリスクについて受発注者間で議論することで共通目標のすりあわせ及びリスクの洗い出しを行いあらかじめ先手を打って対応するなど、プロジェクトを円滑に進める手法の一つである。

今回、億首ダム建設事業の一環として進められている付替県道工事において行ったCCPMを活用した取り組みについて紹介するものである。

2. 内容

- 1) 「三方よし」とは
- 2) CCPMの実施内容について紹介。
- 2) 億首ダム関連工事での取り組み事例について紹介。

3. 結論

今回三方良しに取り組む手法としてCCPMを活用した。まず目標やリスクを予め議論し受発注者間で情報共有していくことで工事実施前にリスクを把握することで先手を打って回避でき、リスクが生じた場合にも迅速かつ適切に判断し対応することができた。また、定期的に工程打合せを行うことで進捗管理はもとより、問題点や解決方法等の情報共有が図られ工事の停滞を最小限に抑えた。これにより目標も概ね達成し、無事限られた工期のなかで工事を完了することが出来た。また、受注者からの意見として技術力向上が期待出来るとの意見があり、受発注者ともに有効な手法だと感じた。

4. 今後の問題点

今回は、工事途中段階からCCPMに取り組んだことから工期短縮による当初目標としていた程度までの利益確保には至らなかったが、工事のなるべく早い段階から取り組むことがより重要であった。また、設計段階においてもCCPMを活用することで問題点や解決方法等の情報共有が図られ、工程管理を行うことにより照査まで余裕をもって設計が完了し、精度の高い設計となる効果が期待出来る。